



輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind



阪神淡路大震災から 27 年。防災意識を高めよう！

－Change（変革）,Challenge（挑戦）,Continue（継続）－

3 学期が始まり一週間が過ぎました。今日は、**阪神淡路大震災から 27 年**を迎えました。もう 27 年になるのですね。ここ数日の新聞等には、あの焼け焦げた痛ましい神戸の姿が掲載されていました。本当に心が痛みます。今の神戸を見ると見事に復興を遂げている印象があります。まだまだ私達が伺い知れない課題はあるとは思いますが、このように復興を果たしてきた人々の優しさ、あたたかさ、力強さ、努力の偉大さを改めて思わずにはいられません。保護者の皆様の震災体験は如何なものだったでしょうか。阪神淡路大震災については、1995 年（平成 7 年）1 月 17 日 5 時 46 分 52 秒、兵庫県の淡路島北部（あるいは神戸市垂水区）沖の明石海峡（北緯 34 度 35.9 分、東経 135 度 2.1 分、深さ 16km）を震源として、マグニチュード 7.3 の兵庫県南部地震が発生しました。死者 6434 人の方が犠牲となりました。この地震は、今まで経験したことのない都市が崩壊するという未曾有の被害をもたらしました。私もこの震災を体験したのですが、未明の激しい揺れを感じ目を覚ました。とても揺れている時間が長く感じられました。朝が早いため、何が起こったのかよく分からないという感じでした。とにかく大きな地震でした。徐々に明るくなり周りの様子を見て驚いたのを覚えています。台所の食器棚の扉が開き、中の食器が落ちて散乱していました。テレビやラジオから神戸で大きな地震が起こったという報道が繰り返しされていました。学校に行くと教室の前の棚の上のテレビが落ちていました。時間が経つにつれ、その被害の様子が明らかになってきました。小野市からも救援物資として、給食センターがおにぎりを作って届けておられました。神戸から非難されて来られた方もおられ、小学校の方

にも神戸からの転入生がありました。私も災害ボランティアとして、神戸の小学校に行きました。震災から少し時間が経っておりましたので、救援物資の配給や施設の管理もある程度基盤ができておりました。その学校を担当しておられたボランティアスタッフの方からは、このような基盤が出来上がるまで相当ご苦労をされた様子でした。ボランティアの方も全国からたくさん来ておられ、支援に尽力されておられました。運動場にはたくさんさんの車もあり、中には炊き出しの為、遠く山口県の方もきておられました。炊き出しのお手伝いをする中で、その方たちが「いてもたってもおられへんかった。」と、**本当に困っている人たちを助けて、あったかい食べ物をお届けしたいと親身になって思われるお姿がありました。誠に尊いものだと思います。**この震災では、生きたくても生きることができなかった命がたくさんあります。大切な人と別れる、亡くすといった辛い思いをされた方がたくさんおられます。改めて、この震災で亡くなられた多くの方々に哀悼の意を表したいと思います。そして、私達は、この震災から多くのことを学びました。**何より、この震災から、人が助け合うことの大切さを学びました。**この時、世界を驚かせたことがあります。それは、日本ではこんなに大変なことが起こっているのに、暴動が一切起きなかったということです。我先にという行動をしなかった。この阪神淡路大震災では、きちんと秩序よく、配給物資をいただく日本人の姿が世界を驚かせました。これを聞いて、日本人は本当に素晴らしいなあと思いました。これは「**相手のことを大切にすることが、自分のことを大切にすることに繋がっていること**」を知っているのだと思います。正に、他の人の命を守る行動が、自分の命を守ることに繋がっているということだと思っています。

先日、南半球のトンガ沖で海底火山の噴火がありました。その津波が日本にも押し寄せ、船が転覆したり、流されたりしました。災害はいつ、どこで、どのように起こるかは分かりません。今日は、是非、災害、そのことについてご家族で考える一日でありたいと思います。